

2009 年度 第 1 回サステナビリティ教育研究小委員会 記録

日 時 2009 年 7 月 17 日 (金) 15 : 30 ~ 17 : 20

場 所 ボアソナードタワー 2 5 階イノベーションマネジメント研究センターセミナー室

出席者 (小委員会委員) 堀内座長 (人間環境学部教授・市ヶ谷環境管理責任者)、小寺浩二委員 (文学部教授)、田中 (勉) 委員 (人間環境学部教授)
 (オブザーバー) 加藤豊常務理事、小倉淳一 (文学部専任講師・EMS 委員)、石神隆 (人間環境学部教授)、他 本学教職員・学生、一般 21 名
 (事務局) 鈴木広行 (環境センター課長)、榎本直子 (環境センター課員)

【議題】

(1) 岩手大学における ESD を考える – 「学びの銀河」プロジェクト–

講師：玉真之介 (岩手大学副学長)

配布資料：「岩手大学における ESD を考える – 「学びの銀河」プロジェクト–

配布資料に基づき、岩手大学玉副学長より、岩手大学において全学共通教育改革の実施に至った経緯、教養科目改革として開始した「学びの銀河」プロジェクトの概要、「ISO14001 と産学官民連携を活用した「π字型」環境人材育成プログラムについて講演。詳細については、後日発行予定の講演録を参照のこと。

・「学びの銀河」プロジェクト

プロジェクトは、1. すべての共通教育科目に ESD を織り込み、「21 世紀型市民」育成の教育プログラムとして再構築、2. 4 つの領域と 4 つのタイプで教養教育の構造化と可視化、3. 高年次課題科目の新設、4. ESD 副専攻の立ち上げを目指した取り組みであり、平成 18 年には現代 GP に採択された。

授業科目の構造は、環境、社会、経済、文化の 4 つの領域で構成されている。また、「関心の喚起」タイプ 1、「理解の広がりと深化」タイプ 2、「学生参加型」タイプ 3、「問題解決の体験」タイプ 4 の 4 つのタイプに分類し、学びを行動に活かせるような実践的なプログラムとなっている。この他には、3、4 年次向けの高年次教養科目は、問題解決型の課題科目、専門性を踏まえて改めて学部を超えて、という観点から開設されている点が特徴である。

・「ISO14001 と産学官民連携を活用した「π字型」環境人材育成プログラム」

プログラムは、「学びの銀河」プロジェクトの実績を踏まえて、プログラムの充実を図ること、ISO14001 と産学官民連携を活用して新しいプログラムを開発することを目的としている。このプログラムは、環境省が公募した「環境人材育成のための大学教育プログラム開発事業」に採択されている。

「環境マネジメントの実務実習」においては、1 年後期、2 年前期、2 年後期といった段階的なプログラムを構成している。「岩手大学の環境マネジメント」は、1 年後期を対象として ISO14001 のシステムの基本理解を目的とする科目である。「環境マネジメント実習」は、2 年前期を対象として、ISO14001 の学内監査員として研修・実務に携わることを目的とする科目である。「環境マネジメント実践演習」は、2 年後期を対象として、中小企業家同友会と連携して地元中小企業の「環境報告書」の作成支援する演習科目である。

(2) 質疑応答

① 「学びの銀河」プロジェクトの推進にあたっての課題 (堀内)

Q : 「学びの銀河」プロジェクトを推進するにあたってどのような点が苦労したのか。

A : 専門分野が異なる教員の合意を得ることが大変だった。

② 「学びの銀河」プロジェクトに対する学生からの評価 (堀内)

Q : 学生はプロジェクトをどのように評価をしているのか。

A : 比較的、学生はすんなりと受け入れてくれた。プロジェクト開始前は、教養科目について批判的な学生もいたが、このプロジェクトの「T 字型人間の育成」というコンセプトに同意してくれる学生が多いと感じている。

③ 実務教育について（加藤）

Q：理系学部では理論重視のカリキュラムが課題となっている。産業界と連携したカリキュラム等の実務教育が必要である。岩手大学では実務教育についてはどのように考えているか。

A：岩手大学では、実務教育につながるような実習等を取り入れている。

④ 教養科目の単位数（田中（勉））

Q：教養科目の単位数について教えてほしい。

A：教養科目としては35単位程度で必修は環境科目の2単位のみである。教養科目については全科目ESDに関する内容が含まれている。

⑤ 「学びの銀河」プロジェクトの教員に対する影響（小寺）

Q：プロジェクトを実施して教員にどのような変化が生じたのか。また、「学びの銀河」プロジェクト終了後に開始した「ISO14001と産学官民連携を活用した「π字型」環境人材育成プログラム」にどのような影響を与えたのか。

A：「学びの銀河」プロジェクトの影響については、これからアンケートを実施し効果を確認する。現在でも、ESDの取り組みに対して抵抗する教員はいるが、全学的にESDが浸透してきているという実感がある。

⑥ 「学びの銀河」プロジェクトの専門教育に対する影響（石神）

Q：プロジェクトの実施は、専門教育にどのような影響を与えたのか。

A：専門科目においても、ESDについて言及する授業が少しずつ増えている。また、学内の競争的資金は、「ESDに対する貢献度」についても項目に取り入れ、大学の特色として打ち出している。

⑦ 「学びの銀河」プロジェクトによる人間関係の変化（大下）

Q：人間関係の希薄さが社会問題になっている。プロジェクトは、T字型人間の育成を目的に実施しているが、プロジェクトを通して教員と学生という人間関係がどのように変化したのか。

A：プロジェクトにおいては、学生による大学の活動への参加を促している。大学は、学生が大学運営に参加できるように積極的に支援している。このような支援を通して、学生の大学への帰属意識は強くなっているのではないか。この他には、学生主体の取り組みとしてピアサポートやボランティア活動への参加などを奨励している。

⑧ ISO14001のシステム及び環境関連資格について（伊東）

Q：2010年に取得予定のISO14001において構成員に学生が含まれるのか。「環境管理実務士」はどのような資格なのか。

A：基本的に学生は構成員とする予定はない。但し、できる限り学生に環境配慮行動をとってもらいように呼び掛ける。また、学生には内部監査などに関わってもらい予定である。学生が参加するISO14001の取り組みでは千葉大学を参考にしている。また、「環境管理実務士」は学内の資格とする予定。

⑨ ESDを推進する組織について（山田）

Q：岩手大学におけるESDを推進する組織について説明して欲しい。

A：プロジェクト開始前は、各学部から選出された委員から構成される委員会方式をとっていた。しかし、継続性の観点から課題があったため、専任の教員を配置する恒常的な組織を設置した。

以上